

新⁷二子の課題

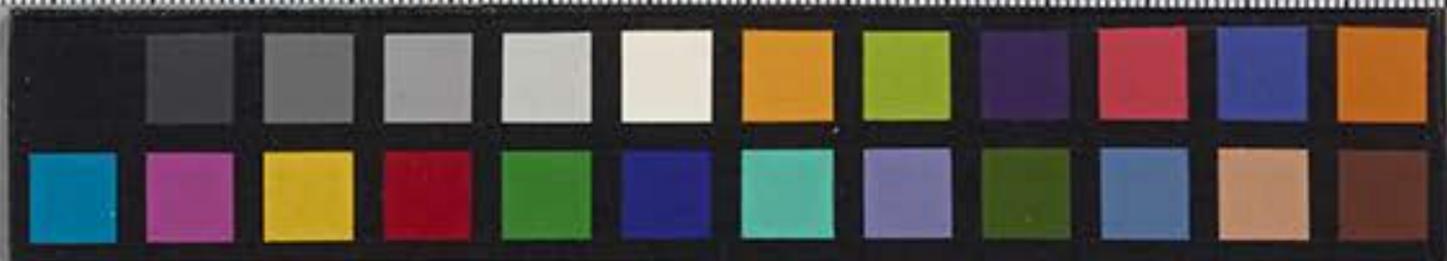
(愛知女子大学)

岡崎分校学生新聞

創刊号

一九五〇年十一月十七日

Kyoto University



哲 學 の 課 題 (一)

上 山 春 平

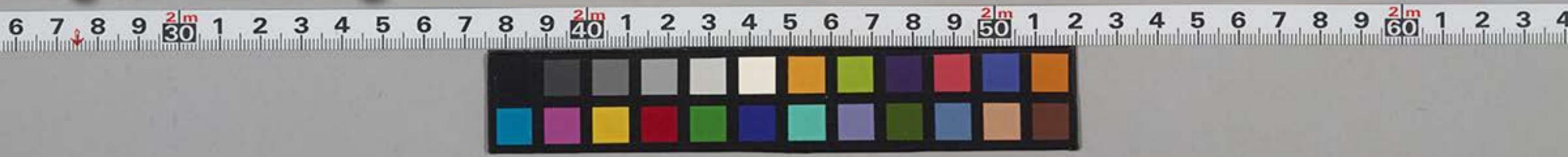
普通の人はその時代その社会の尺度で始められているが、では價な社会的価値にはいずとも満足し
 度に従つて物事を判断したり評價の尺度が金くさやくになつてい
 したり、その尺度はもとより相対する「哲人なほもて住生す、況んや
 的なるものであつて無限の可能性を「哲人をや」という親らんの言葉も
 はらむ人間的生活の一面を伴つてこの点では軌を一にしているもの
 ものでしかあり得ない、哲学や宗といえより
 教の分野に大きな足跡を残して、社会の理想、法律や道徳等は人間
 の天才はこのよりな尺度を感え、生活に影と日向を照りある時代
 た、むしろそれを包むよりなものである社会的理想が偶然ある人の
 と、立体的な尺度を呈出せりとし、生活にとつて有利であればその人
 てきた、普通の尺度ではマイナスは強弱であるがそでない場合に
 のみ現れる人がこの尺度において人は不幸に陥りやすい、現在の
 は新しいプラスを踏み取る事が出、社会の物指で満足している人は他
 來る
 イエスの有名な「山上の垂訓」はや他の物指を使つたり等とはしない
 「愛顧なるかな心の貧しき者、天がそれによつてマイナスの結果は
 國はその人のものなり」という言かりの出る人や制限された一面的
 ならぬ、それ故にまたイエスが

する。

学者やバリサイ人を痛撃したやう
 に彼は別社会の支配者層のおこぼ
 れを頂戴しようというフチ・フル
 根性に対して徹底的批判を加えた
 のである。
 わたくしがマルクスとイエスを
 交互に引合ひに出したのはマルキ
 シズムがキリスト教と似ていない
 はかりでなくむしろその反対物で
 すらあるといわれているにも拘ら
 ず、前者は新しい価値の尺度を持ち
 行動の原則をもつ点でともに信仰
 の原理として則ち得るよりに思わ
 れるからである
 宗教と信仰とは同じ意味に用いら
 れる事も多いが、例えは英訳の場
 合は Faith and Belief の方が
 Religion は通かに Faith 印を
 持つものである事は難しも疑うま
 い、人間が直感的な行動を特故と
 する動物である限り全てを本能に
 まかせる事もまた全てを不完全な
 知性にまかせざる事も出来ないで
 本能と知性のまぢまぢな均衡にお
 いて行動を確けねばならない、そ
 れ故に両方の要求を相互に満たす
 ような行動原理が必要である、こ
 のような原理を信仰といふのが嫌
 なら確信といつても人生観といつ
 ても確信えなかるう、現代人は感
 い本能(新聞・雑誌・映画等のい
 すれをとり上げてみてその実例
 には事欠かなら)と聞く知性(近
 代科学の齎成果をみよ)との新し
 い均衡の場を求めている、旧來の
 信仰を失つてバラバラに分解され
 た人間分子は(この事象をニーチ
 エは「神は死んだ」という言葉で
 表わしている)今や新しい結晶點
 を求めてゐる、マルキシズムがそ
 のような要求に対して注目すべき
 内容を用意してゐる事はその事実
 を快く思ふと否とに拘らず認めな
 べからぬに非かたであるが、わ

地位、財、
 財、財、
 とモカク

京都大学
 国文学部
 創刊号
 一九五〇年十一月十七日



拾遺の深題

(三)

Kyoto University

2 3 4 5 6 7 8 9 2m 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2m 50 1 2 3 4 5 6 7 8



三番煎じの学説いびりが学向の進歩に何等貢
 私はこの意見に全く同感である。二番煎じ
 体あるかどうか。と。
 連つていふもろかと母ゆい実に対する自覚が一
 従つてそれかやがごとく現実に對する自覚が一
 学史上どういふ問題性をもちかといふこと。
 その場合その自分が問題にしつゝいふことが哲
 もそうなること。当然のことである。だが
 しかしそれは長い向学向をやつておれば誰で
 とがらや文献とかにはみな相当に通じている。
 つ次のように述べている。無論いふところのこ
 語で以て性格づけ、その低調ぶりもなじりつ
 教授は大会の印象を「問題意識の欠除とあり
 一ケル哲学研究で有名な武市健人教授である。
 季大会の印象記がのせられていた。筆者はへ
 (一九五〇)
 十一月下旬発行の讀書新聞に日本哲学会秋
 問題意識

問題意識

上山春平

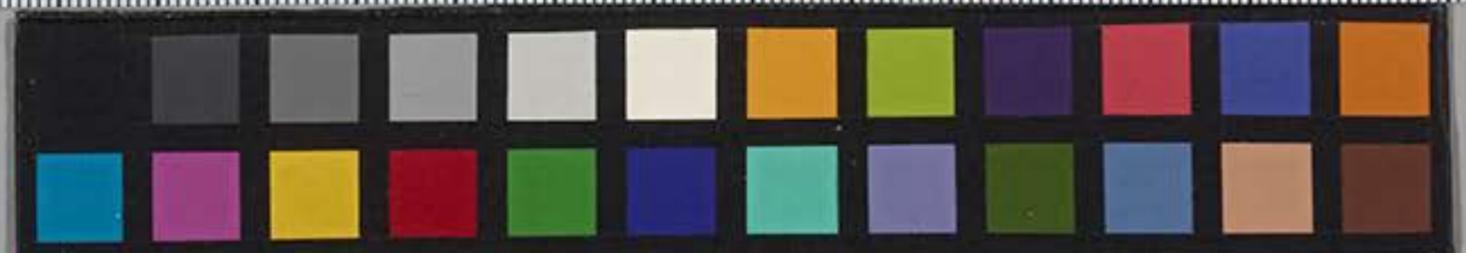
2800

7/21

11/20

愛知学院大学愛知第一別館学統部資料部蔵

Kyoto University



い つ ま び た つ て も 日 本 の 哲 学 会 は 一 歩 も 前 進
 も り な の か。 そ ん な こ と に 満 足 し て い る か ら
 か い つ て 何 時 ま だ そ ん な 癡 言 を く り か え す つ
 ゲ ル が ど う い つ た と か カ ン ト が ど う い つ た と
 突 然 粗 野 な 老 学 者 が 立 ち 上 っ て、 「 君 達 は へ
 ン の 一 人 が 自 信 満 々 た る 論 陣 を 展 南 し た 後 に、
 大 会 中 二 日、 京 大 出 身 の 優 秀 な へ ー ゲ ル
 で あ る。 念 論 に ま つ わ る 悪 夢 が 千 ヨ ウ リ ヨ ウ す る 仕 末
 向 に 合 は な く な る の か、 依 然 と し て ド イ ツ 観
 さ て 南 き 直 っ て 学 会 と な る と こ ん な 借 着 だ は
 ゆ う 新 し い 話 題 を も つ ば ら 取 扱 っ て い る が、
 さ と 取 残 し て マ ル キ シ ズ ム や 実 存 主 義 な ど と
 矢 の 速 い ジ ャ ー ナ リ ズ ム は そ ん な も の を さ つ
 か 悪 夢 に う な さ れ っ ぱ け て い る。 さ す が に 眼
 イ ツ 観 念 論 と 蘇 州 重 い 食 事 を こ な し 切 れ な い
 リ 外 は な い。 こ こ 数 十 年 来 日 本 の 哲 学 界 は ド
 い る 日 本 に と つ て は 全 く 無 用 の 長 物 と 蘇 州
 足 踏 み し て い る 哲 学 者 な ど こ の 危 機 に 瀕 し て
 漸 進 し な い こ と は も と よ り の こ と、 そ ん な 所 だ

愛知学院大学愛知第二部附属愛知中学校

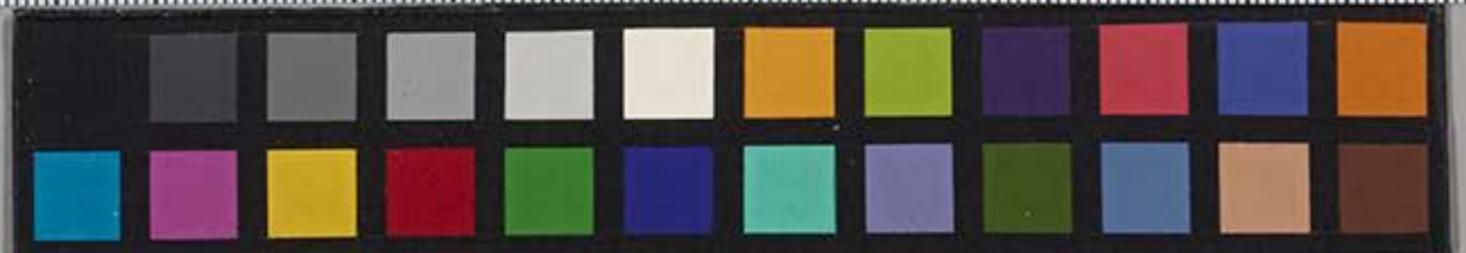
Kyoto University



できな...の...ではな...か。...となりつ...
 同...つけにと...られ...う...にあ...
 い論難が...つけられ...た...う...司...
 雨...の制止によ...て沈黙...せ...
 は田舎...者何...を云...か...わ...
 ら...笑いと...は...て...た...
 ...とかの老...者は国際...会にも出席...
 のある...バ...う...た...の...
 事をもつ...し...も...が哲...会...
 に入水...りの感...な...も得...
 問題意識が...ない...とゆう...
 た問題と取組...ん...い...
 過去の学説の亡霊...とのみ...
 とゆう...と...ある。...哲学...
 問題との対決を避...けたり引...
 自...己の生命を失...つて無...
 とは云...うま...でもな...
 に...「汝ら...は地の塩...
 何を...もてか...之に塩...
 す...てられ...て人に踏...
 ...ま...る...の...み...
 ...とゆう...
 ...葉が...

愛知学院大学蔵元第二回新編...
 ...
 ...

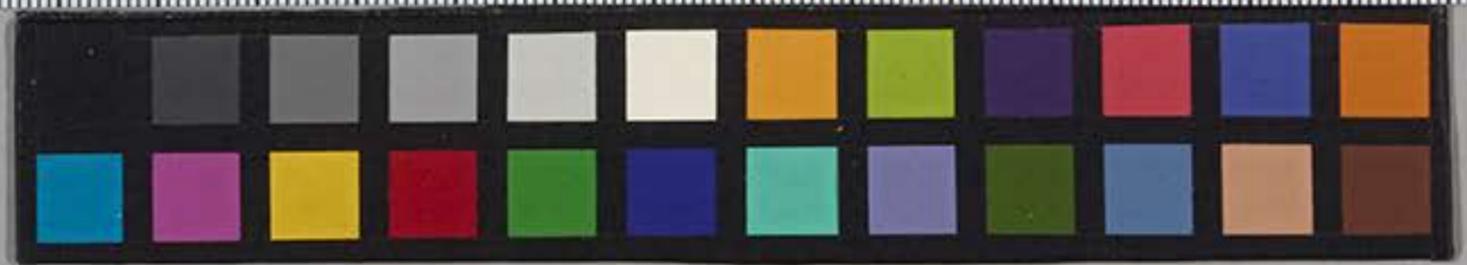
Kyoto University



う	つ	れ	と	否	き	キ	も	あ
向	と	る	ゆ	自	時	リ	塩	る
に	も	所	い	分	代	ス	気	が
つ	旧	以	向	は	は	ト	を	現
り	く	で	が	一	一	教	失	実
な	し	あ	哲	体	体	徒	つ	と
る	て	る。	学	如	い	の	た	の
も	常	そ	の	何	か	如	塩	交
の	に	し	中	な	な	き	の	渉
で	新	て	心	る	行	も	如	を
あ	し	こ	的	行	動	の	く	失
る	い	こ	的	動	原	と	ま	つ
う。	「	の	課	理	理	い	た	た
	真	向	題	を	を	え	哲	学
	理	は	と	選	選	よ	は	あ
	と	恐	し	ぶ	ぶ	う。	あ	た
	は	う	て	べ	べ		た	か
	何	く	要	き	き	「		
	か	も	講	か	か	来		
	と		と			る		
	い		と			べ		

10
 11
 12

Kyoto University



真理とは何か 一九五〇

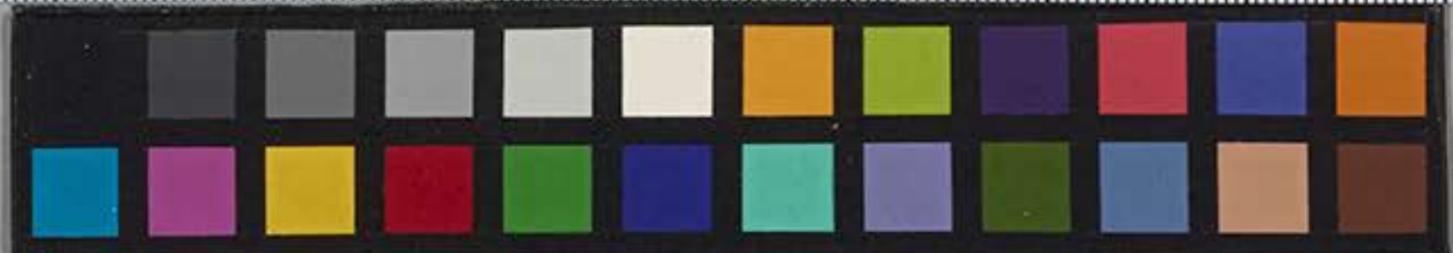
女ルユエマタイールカの三福音書によれば、
 平スハ総督ピラトは、「なんぢはユダヤ人の王
 なるか」と問われたとき、「なんぢの言ふが如し
 と云い放つたまゝ、彼を曳き立てて来た祭司長
 もの色々な反対の訴えに聞しては頑として沈
 黙を守つた。ピラトの怪しむばかりにイエス
 更に何をもち答へ給ふ」とマルコは記して
 ヨハネ伝は同じピラトの向に對して、「われ
 の王たることは汝の言へるがごとし。我は之
 がために生れ之がために世に來れり、即ち
 真理につきて証せんためなり。凡そ真理に屈
 するものは我が声をきく。」とイエスは答へ
 めせけるが、上の答へは恐らくピラトにとつて
 も逆らう祭司長らにとつても沈黙に等しい効
 果しかもたなかつたのである。真理とは何か
 と、ピラトの反対は答をもちえられずには打切
 りれ、ピラトはこの疑問を残したまゝ、群衆の
 声はおされ、イエスを十字架につけしめし
 ました。ピラトは恐らく当時のローマ人の常識に
 したがって、身につけていゝたのである。真理

Kyoto University



のとなつた。のびる。
 十九世紀に至つてようやくゆるがし得ないも
 的。世界観が現実のうちに確固たる根を下し、
 命のつらさ、革命などを経て科学的合理主義
 教との斗争の後十八世紀の啓蒙思潮や産業革
 判にかけられた。長^い年月にわたるキリスト
 ルーノは裁判に處せられカリシオは宗教裁
 なく、イエスが十字架にかけられたようにガ
 決してたやすく旧い真理にうちかつた訳では
 球をおおうに至つた。もとより新しい真理は
 トンと次々に代弁^者を取^取えながらそれは全地
 語り始めた。ガリレイ・バロコン・デカルト・ニュー
 つて頂卓に達したその声は遂に自らの答^えを
 てゆく若々しい声であつた。ピラトはあへて力強くなつ
 声ではなくだんだん明瞭にそして力強くなつ
 々々知つてゐる。それはあつた時ほど弱々しい
 かけ、再びピラトの向かくり返されたのを告
 しかし乍ら、中世の末期から近世の初頭に
 づいた。のびる。
 〇年にわたつて公認の真理とされる基礎をき
 を屈服せしめ、イエスの福音が中世一〇〇

Kyoto University



哲學の課題

③

哲學教室 上山春平

しかし乍ら十九世紀の後半期に入源流をニーチエとキエルケゴール
つて吾々は又々いぶかし氣に「此にまでたどれば、キエルケゴール
埋とは何か」とつぶやく函をきくと同時代のドストエーフスキヤ
、それはキエルケゴールやニーチエの先行者としてのシヨ
エに至つて確固たる響きをおびて
きた。吾々は彼等において代表的
に見られる近代的世界観への否定
的たい度を実存主義という名によ
つて呼びならわしているが、この
名称はヤスバースやハイデツガー
によつて思想界の商標となり第二
次大戦後サルトルやマルセル等に
よつて一層普及されている。その

けいていることは周知の通りである

が注目される。即ち、この思想
の源泉は宗教的世界観のうちに見
出されるように思われるのである
もとよりこのことは実存主義が直
ちに既成宗教と手をつなぐことを
意味しはしない、そこにはあたか
もイエスとユダヤ教、ルターとカ
トリック教、釈迦とバラモン教と
の間に見られたような激しい闘争
が予想されさせる。宗教的世界
観はこのような激しい自己否定に
よつてのみその老衰した救済機能
を更新することができるといふよ
うである。実存主義は既成宗教と
衝突するのみではなく、近代的世
界観のいわば極限的代表といふう
るマルキシズムや、更にまたアラ
グマティズムとも激しく衝突する

丁度兵士が自己の生命本能にうち
かつて敵中に突進して行くときの
ように、それが敵に対して強くあ
るためには先づ自己にうちかたね
はならない。宗教的世界観の自己
超克が徹底していなければ近代的
世界観との闘争には敗れる外はな
い。それ故に外敵との闘争はいよ
いよ自己否定を徹底せしめずには
おかないだろう。今日吾々はこの
ような真理の闘争の渦中に立たさ
れている。「真理とは何か」とい
つ問はます／＼高らかとなり、そ
れへの答はます／＼紛糾に陥つて
ゆく。しかも哲学はこの間を回避
することはできない。それは哲学
の自殺にも等しい行為だからであ
る。

